第４５回ごみ問題検討委員会議事要旨

日　時　　令和４年１０月１１日（金）１０時００分～１１時１５分
場　所　　千葉市役所本庁舎８階　正庁
出席者
〔市連協〕　　委員長ほか１１名
〔廃棄物対策課〕　　課長ほか３名
〔収集業務課〕　　課長
〔廃棄物施設維持課〕課長
〔廃棄物施設整備課〕課長
〔産業廃棄物指導課〕課長補佐
〔事務局〕　　課長ほか３名

１　開　会
　　～　事務局発声　～

２　委員長挨拶

３　議　題

【第１部】

（１）　令和３年度のごみ処理に関する実績報告及び実施した主な取り組みについて

（２）　次期千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画策定について

～　資料１、資料２及び資料３　説明（廃棄物対策課長）　～

［主な意見・質問］

【委員】　ごみステーションにおける合同パトロールは、具体的に何か所で実施しているのか。

【収集業務課】　新型コロナウイルス感染症の影響もあり、合同パトロールとの名称で行っているケースはないが、環境事業所職員がパトロールをする際に、自治会の方と一緒にパトロールする機会があったため、このような表現にしている。

新型コロナウイルス感染症が収束に向かっているので、合同パトロールを実施していきたいと考えている。

【委員】　集団回収奨励補助金の交付団体は具体的にどれくらい減少しているのか。

【収集業務課】　令和３年度は資料にもあるように６０３団体が活動しているが、平成２９年度においては、６５３団体が活動していた。

ＰＴＡや子ども会の活動団体の減少が目立つ。集団回収の新規開始や、一度辞めた団体の再度活動開始のお願いについて、市政だよりへの掲載や適正化推進員にチラシを配布する等しているが、減少に歯止めが立っていないので、工夫していきたい。

【委員長】　集団回収で回収したものは品質が高いという話は聞くが、コスト面やステーション収集に流れている現状を含め、千葉市としては集団回収を増やしていきたいと考えているのか。

【収集業務課】　収集を実施している業者からは、集団回収の方が比較的収集物の質が高いと聞いている。コスト面では収集物の種類で条件が違うため、単純な比較は難しいが、集団回収実施団体への補助金もあり、全体的に考えればステーション回収よりも、集団回収の方が高コストと言える。

一方で、集団回収はごみを減らすこと以外にも、意識啓発にとって重要であると考えているので、引き続き活発化していきたいと考えている。

【委員長】　集団回収実施団体の話を聞いたところ、資源回収が集団回収ではなく、ステーション回収に流れているという意見と、補助金の金額が下がったことでモチベーションが下がったという意見があったが、補助金額を元に戻すことはないのか。

【収集業務課】　古紙相場等がだいぶ乱れており、事業者も窮状を訴えている。まずは全体が止まらないような対策を講じていきたい。

【委員】　ステーション回収の場合、ティッシュなど回収対象以外のものが混ざっているといった問題があるという話を事業者から聞いたことがある。

【収集業務課】　そういったものが混ざっているという話は把握していないが、集団回収の方が品質が高いと認識しているので、活発化していきたいと考えている。

【委員】　資料３「次期一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（案）の概要」の数値目標について、「総排出量」、「家庭系ごみ排出量」、「事業系ごみ排出量」はどういった考え方で数値を表記しているのか。

【廃棄物対策課】　「総排出量」と「家庭系ごみ排出量」は１人１日あたりどれだけごみを出すかという「原単位」で、「事業系ごみ排出量」についてはごみ発生量の「総量」で表記している。次期計画においては、「総排出量」と「家庭系ごみ排出量」については、市民の皆様により身近に感じてもらえるように、何十万トンという全体量ではなく、１人１日あたりとした。

【委員】　資料１「令和３年度のごみ量について」において、前年度に比べて、令和３年度の家庭系焼却ごみ量は２．２％減少しているとあるが、区単位の集計はないか。

また、花見川区では人口が減少しているが、その影響はわかるか。

【廃棄物対策課】　人口については、令和３年度は市全体の人口が、１，９５８人増えているので、その分のごみ量は増加していると推計している。

区単位の焼却ごみ量について出せるかどうか確認させていただく。

≪補足説明≫

区単位のごみ量は把握していない。

【委員】　廃食油回収拠点について、千葉市全体で４４か所というのは少なすぎる。

【廃棄物対策課】　今後も引き続き様々な機会を捉えて広報のうえ、拡大していきたい。

【委員長】　廃食油が全体でどれくらい排出されていて、そのうち何%を回収してリサイクルできているかといったデータはあるか。

【廃棄物対策課】　全体量の把握はしてない。

【委員】　可燃ごみの排出日に剪定枝・刈草が混入しているケースを非常に多く見受けるが、どれくらいの量が混入しているかデータはあるか。

【収集業務課】　混入しているケースがあることは認識しているが、量は把握していない。

そもそも剪定枝・刈草の排出日を知らなかったという声も聞くので、市政だより等で広報を続けていきたい。

【委員】　家庭からでる剪定枝排出量の推移はどうなっているか。

【収集業務課】　剪定枝は平成３０年度から全市的に収集を始めている。収集量は平成３０年度約４，５００トン、令和元年度約５，８００トン、令和２年度約６，５００トン、令和３年度約６，３００トンであり、右肩上がりで伸びていたが、令和２年度に比べ

令和３年度は減少している。今年度は昨年度に比べて多いペースで収集できている。引き続き市政だより等の各種媒体で周知していきたい。

【委員】　可燃ごみに大量に混入している剪定枝・刈草について、再資源化に回せるように工夫してほしい。

【収集業務課】　可燃ごみの収集日の翌日が剪定枝等の収集日の場合は、取り置きも実施しているが、ごみステーションを占領してしまう、虫がでると指摘を受けるなどの問題もあり、はっきりとした解決策を申し上げられないが、引き続き対応していく。

【委員】　ビンを排出時に色別に分別する必要はあるのか。収集業者を見ていると、まとめて積み込んでいる印象を受ける。また狭いごみステーションなどではコンテナが十分に設置できていないところもある。

【収集業務課】　収集後のリサイクルが容易になることから分別をしているところであるが、たしかにステーションによってはコンテナの個数を減らして設置しているところもあり、荷積みについても難しいといった声があるので、ビンの分別についても検討していきたい。

【委員】　現場の処理としてはどのようにしているのか。ビンを分別する必要があるのか。

【廃棄物施設維持課】ビンについては現場で人力で、透明、茶色、その他のビンに分けているため、最初の段階で分けたほうが後の処理が楽である。

【委員】　それならば分別を徹底する必要がある。狭いごみステーションであってもコンテナを設置するようにしないといけないのではないか。

【収集業務課】　統一規格のコンテナを使用しないと非常に効率が悪いこともあり、コンテナのサイズから物理的に一色分のコンテナしか置けないごみステーションもある。ステーションにおける状況、ビンをコンテナで収集するのか、分別をどの段階で行うのか総合的に検討していく必要がある。

【委員】　生ごみについて、学校で発生するもの、家庭で発生するものについて、それぞれ再資源化等の取り組み状況は。

【廃棄物対策課】　まず小学校で発生する生ごみについては、当課の事業として、学校給食残渣再資源化モデル事業として、千葉市内の計６校で実施している。中学校については、教育委員会の事業として、給食センターで再資源化施設に持ち込んでいると認識している。

家庭から出る生ごみについては、生ごみ減量処理機について各種媒体で広報しており、令和２年度から使用者が増えているので、引き続き取り組んでいきたい。

【委員】　学校給食残渣再資源化事業は相当以前から取り組んでいたと認識しているが、未だ実施校が６校では少ないのではないか。

【廃棄物対策課】　学校給食残渣再資源化モデル事業は平成３０年度末から始めた事業であり、令和３年度まで毎年度実施校を増やしてきている。

【委員】　千葉市が色々と取り組んでいる事業やごみの分別方法が、市民に伝わっていないように思う。もっと簡単にわかりやすく広報をしてほしい。

【収集業務課】　市政だよりなどで引き続き広報をしていく。またチャットボットも広めていきたい。

【委員】　外国人が増えているが、社宅に入居するケースが多く、コミュニティもなく、企業から本人たちへ説明しても伝わらないため、ごみの分別が不十分などの問題が出ている。

【収集業務課】　そのような問題は認識している。コミュニティとの窓口になってくれる人がいない場合、なかなか対応が難しいところではあるが、外国語版のごみの出し方一覧表をポスティングするなどの対応をしている。問題があった場合はご連絡をいただきたい。

【委員】　ＵＲや国交省とも交渉を行うなどして対応することを検討してほしい。

【委員】　新清掃工場建設工事と環境影響評価事後調査、その公表に係るスケジュールはどのようになっているか。

【廃棄物施設整備課】新清掃工場の解体は令和３年４月から令和４年１０月末までを予定している。その後、令和７年度末まで新築工事を実施する。環境影響評価については工事中における予測通りの結果になっており、工事終了まで実施し、その後に公表となる予定である。

【委員】　自治会に参加していない方がごみステーションにごみを排出するトラブルについて把握しているか。

また、災害時に発生するごみの処理についてどのように取り組んでいるか。

【収集業務課】　１点目について、相談を受けることがあり、最終的には当事者間での交渉となるが、ごみステーションの使用について、ごみ当番のみを行っていただく、ごみステーションに係る経費負担のみ行っていただく、未加入者で新たにごみステーションを設置していただくなど、いくつかの実例を紹介している。

【廃棄物対策課】　２点目について、災害廃棄物については千葉市災害廃棄物処理計画を策定している。また職員の役割を明確化した庁内マニュアルも整備している。

【委員】　指定廃棄物についてはどうなっているか。

【廃棄物対策課】　過去に指定廃棄物であったものについては、数値が基準を下回ったため指定解除となっており、新港清掃工場に保管している。

【委員】　千葉市は、他市町村から指定廃棄物を受け入れないということでよいか。

【廃棄物対策課】　平成２８年度の調査において、受け入れはできないと国に回答しており、その考え方は変わっていない。

【委員】　排出量が多い松戸市や柏市は自分たちで指定廃棄物を保管するということになったのか。

【廃棄物対策課】　他市の状況はわかりかねる。

【委員長】　一般市民に説明して、理解してもらうためによりよいアイデアをお持ちの方がいれば披露していただきたいと思う。各町内自治会が集まる際にＰＲすれば効果があるか。

【委員】　自治会が指導していくことが大切である。自治会に入っていない共同住宅は不適正な排出が多いことが問題である。

【委員長】　ごみの問題はこれからも繋がっていく問題なので、いかに皆に徹底して、理解してもらえるかということはずっと続く課題である。良いアイデアがあれば出してもらい、反映していきたいと思う。

５　閉　会

～　事務局発声　～